

## 学校図書館運営マニュアルプロジェクト 活動報告

SLiiiC では 2012 年 12 月より、「学校図書館運営マニュアルプロジェクト」（以下、マニュアルプロジェクトとします）を実施しています。マニュアルプロジェクトではこれまで、自治体や学校に向けてマニュアル作成の実態に関するアンケート調査を行ってきました。それとともに、学校図書館関係者を対象にしたインタビューを行い、実際にマニュアルを活用するユーザのニーズを探ってきました。最終的には、各自治体や学校でマニュアルを作成する際の指針案（ガイドライン）とその案を元にしたマニュアルのモデルを提案したいと考えています。

藤沢市の中学校図書館専門員である伊藤尚子さんと出会ったのは 2014 年初夏、マニュアルプロジェクトが企画協力で参加した「学校図書館キホン講座」（学校図書館問題研究会神奈川支部主催）でのことでした。伊藤さんからマニュアルの作成を模索したいので協力してほしいとの申し出を受け、そこから FSL（藤沢市学校図書館専門員自主勉強会）とマニュアルプロジェクトの協働が本格的に始まりました。

全校配置ではあるものの、週 2 回勤務で研修の機会も決して多くはない、学校によって取り組みの状況は実に様々という藤沢市の現状を共有した上で、マニュアル作成の足がかりとして協働勉強会を 3 回開催しました。そこから事態は急展開し、あれよあれよという間に 2015 年度から教育委員会主体で学校図書館運営ガイドブック作成部会が組織され、話し合いが開始されました。

サマー・ワーク・キャンプでは、藤沢市の学校図書館の状況と FSL・SLiiiC の協働について、そして今年度からの新たな動きについて、伊藤さんから報告していただきました。また、マニュアルプロジェクトからは、FSL との協働勉強会の内容と今年度実施している調査について概要報告を行いました。FSL とマニュアルプロジェクトの協働の経緯については伊藤さんの当日のパワーポイント資料も合わせてご参照ください。

伊藤さんはじめ藤沢の皆さんとの協働で学んだことは、とにかく行動あるのみ、です。手をこまねいているばかりでなく、様々な人の手を借りながら、出来ることからやってみる。そんな熱意と切実さがまた他者を動かすのだと思います。私はまさに 1 回目の協働勉強会でその瞬間を目撃しました。あの時の高揚は今でも忘れられません。3 つの C を掲げて活動する SLiiiC スタッフの一員として、何かしらのお役に立てたのであればこの上ない喜びです。

（記・野口久美子）

藤沢市立片瀬中学校図書館専門員／FSL(藤沢市学校図書館専門員自主勉強会)代表

伊藤尚子さんより

今回、藤沢市のこれまでの経過を振り返ってみる機会を得、また、同時進行で行っている学校図書館の運営ガイドブック作成に関わっていることで、気づいたことをコメントとさせていただきます。

学校図書館を取り巻く状況は、まだまだ厳しい状況ですし、藤沢などでは、その中にあるのに特に立ち遅れている現状は否めません。専門員のままならない思いも多く耳にします。ただ、そこに携わる方たちの熱意を強く感じることも事実です。

司書教諭、学校司書がそれぞれの役割を果たすこと、そこには、行政の大きな後ろ盾が必要であること、そして、その三者の連携が持たれてこそ、学校図書館の持つ力が発揮されるのではないかと思います。学校司書だけが先走りして奮闘するだけではなく、自分のスキルを上げながら、そこにプラス、さまざまな方たちを巻き込んで協働していくこと、それが学校図書館を有効に機能させることにつながるように思います。

藤沢市のガイドブック作成の動きは、急展開な始まりでしたが、三者とそこにさらに公共図書館も加わり、いい形で動き始めているように思います。時間をかけて、みなさんでいろいろなことを共有しながら進めていくことに意義を感じます。SLiiiC と FSL の勉強会が大きなきっかけ作りになりましたし、FSL も有意義な勉強をさせていただきました。

